

# 阪神間方言語法

——中學生の場合——

鎌田良二

## (一)

最近の交通網の發達とか、新聞・ラジオの普及とかによって、特に都市における方言調査の方法は、農山漁村のそれよりも一層めんどろなものとなっている。

「甲方言」とは甲地域社会の成員の言語の総和をいうのであれば（註一）大阪で「机」のことを「ツクエ」といい、「私」のことを「ワテ」といえば、「ツクエ」は共通語で「ワテ」だけが大阪方言であるというような立場でなく、「ツクエ」も「ワテ」も一様に大阪方言であるということになる。

であれば方言調査とは、その地方の言語実態調査と同意義になる。

甲地域社会を構成する成員とは今日のように、又、都市においてみられるように常に出入のはげしいところでは、昨日転居して来た人も、一カ月前に入った人も、十年前から居る人も同じように考えるべきであろう。

ここに農山漁村に古老のことをばをたずね求めるのとは、又違った立場になる。

即ち、ここにいう方言調査——甲地域社会の成員の言語の総和を調べる場合——は、或る日時に全市民的に行われる共時的調査において意味があるのであり、農山漁村に古老のことをばを調査する方は、国語史的に意味をもつのである。即ち古語の「A」という語が甲地では、現在「A'」という形になって存在し、乙地では「A''」という形で、あるいは意味用法変化して存在する、そのA/V/A'/V/A''の間における変化の模様をしらべることには大切なのである。これに対して、都市における言語調査の場合（註二）は、とにかく現在の甲市においてどんなことをばをつかっているかということとは新聞・ラジオの

普及、交通のはげしき、移住の出入の多いにもかかわらず、やはり甲市のことばと乙市のことばとは違いがあり、乙市と丙市でも違って、何故に同じにならないのか、また、そしてどの程度に同じ方向に近づきつつあるかということなどを考えてみることによって、ことばの変化の模様をしらべることが出来るであろう。

こうすることによって同じ方向に向って来たことばと、どうしても変化出来ないことばを取捨選択し、本当の意味での共通語というものを考え、つくり出さねばならないであろう。

学校教育がこれほどさかんになり、義務教育が延長され、高等学校の生徒がふえてくるにもかかわらず変えることの出来ないことばの姿をみて、これからの国語教育、共通語のあり方を考えねばならないであろう。

## (二)

阪神間は大阪・神戸を都市の連続によって結ばれている。即ち、大阪市、豊中市、池田市、川西市、宝塚市、尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市、その西には明石市があり、市のみでその間に町村ははさまれていない。

それでいま、市のみを通して大阪・神戸を結ぶ線、即ち、なるべく海岸寄りに地点をえらんでみた（北の方はごく最近、市町村合併によって入ったところが多いので避けた）

次に調査地点をえらぶには大体十二、三地点という見当で、先ず五万分の一の地図でなるべく等間隔にしるしをつけてみた。すると地図の上で大体五糎、七糎、即ち二・五糎から三・五糎の間隔をおくことになった。それが丁度、神戸市にとっては各区に一つということになるので、表のような地点をとった。だから結果的に行政区劃一つに一地点ということになったが、はじめの意図は右のようなものである。

東灘区（東）と芦屋市との間、西宮市と尼崎市（西）との間は少し余分にはなれていて、この間にそれぞれ一地点をもつべきだったかと思うが、丁度、工場とか田地で中学校がなく、その近くの中学は、東か西へ寄りすぎているので結局この間にはふいた。

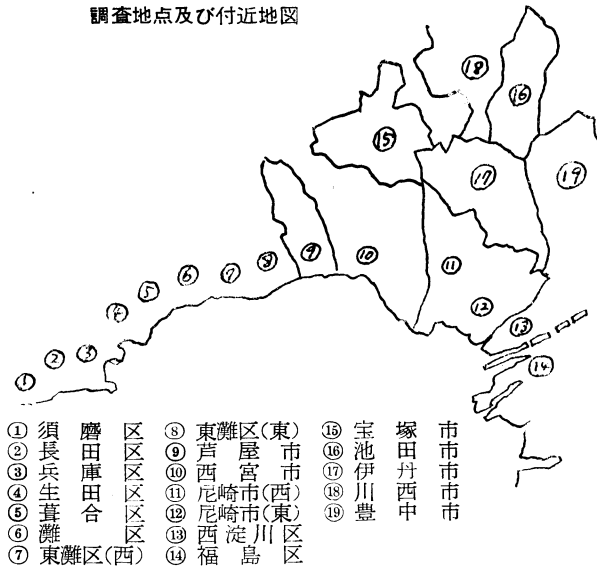
中学校は勿論、学区制でその土地に住む者が来ている。

阪神間は大体そうだが、特に神戸市は大きくみると海岸に沿って工場地帯がつらなり、その北に商店街、住宅地は更に

その北にと並行にならんでいる。

また、交通も南北に走るものはバスが少しあるのみで殆んどない。

調査地点及び付近地図



阪神電車、国道電車、国鉄電、阪急電車と四本がこれまた南から順に並行して走っている。だから海岸から北へある一定の距離をとれば東西には大体同じような住民条件となる。ここでは海岸からの距離は大体、一軒から二軒である。大阪市、尼崎市は海岸から二軒位は全くの工場地帯であるので四軒位入っているところもある。それで先の地点と住民条件は大体同じである。

職業別にみると、会社員、工員、商店などが最も多く、まず中流普通というところであろう。芦屋市、西宮市はこの点いくらか上流も混じっている。

調査にあたっては、三三頁のような調査表を一枚男女各百枚ずつ依頼した。(男女六十枚位のところもあった)

三二年五月から十二月までの間に依頼したが、丁度流感で休校とか試験、行事などで忙しいなかを無理にたのんでやって頂いたり、大阪市ではこの種の調査が最近多すぎて困り、教員組合ではなるべくことわることにしているそうだが、これまた無理していただいた。(註三)

(三)

調査にあたっては国語の先生にはお願いしたが、内容の質問などがあっても、とにかく自分で使うと思うものについて

書くということだけで、そのほかには何も答えていたかないようにしておいた。だから生徒側でどう考えていたか、また、どんなことをたずねたがっていたかについては何も聞いていないが、大体は書きことばではなく、話しことばについて答えた結果からみて判断できる。

書きことばの場合もいれるかどうかぐらゐのことは言ってもよかっただろうが、あまり厳密に考えたりするよりも、使うと直感的に感じて早く書きこんだ方が案外正確なのではないかと思つたから、そのようにしてみた。

用紙にまず氏名欄を設けたことは、ただ、真面目な態度でということのためのものにすぎない。

少し余分なお願ひしてクラス単位で実施してもらひ、出生地、生育地が今度の調査の他の地点である者は集計の際省いた。

学年は三年生。但し、一地点で三年と二年と混ざっているところもある。年令的に三年生は、ことばも大体固まつてきていると考えたからである。

中学生が他の土地から転校して来た場合、どの位の年月でその土地の方言（語法面で）になるのかも知りたかつたが、これは個人差も大きいことだろうし、家庭の環境にもよるだろうと思つたので、今回はやめた。

調査表の上のグループ、1——37は所謂大阪弁と兵庫ことばの境界線をみようとしたのである。

後に掲げた集計の順序と違つて、似た形をばらばらに入れてあるのは、直感的に書き入れるためにあまり同じような形ばかりをならべると、その中から一つをえらばなければならないような気をおこさせてはいけなかつたからである。そうかと言つて余りばらばらでも困ると思つて、結局このようになった。

「ここに出てゐる言い方を使わなければ、このような場合に、どんな言葉をつかいますか（ ）の中に書いて下さい」という項目をつくらうかと思つたが、以前にそのようにしたときも、（註四）結果的にみてあまり効果がなかつたので、今回はやめた。

下段1——61は、はじめから今回の地点による地域差は期待してゐないで、ただ阪神間全体的に、どのような言い方をしているかを知りたかつた。

阪 神 方 言 語 法 調 査 案

阪  
神  
間  
方  
言  
語  
法

氏 名 (年令 才)	家の職業 男 女	現 住 地 市 区	出 生 地 県 府	郡 市	生 育 地 県 府	郡 市

(お願い)

あなたは次の言いかたをなさいますか、あなたの使っているものの番号を左のかっこの中に書き入れて下さい。

1. 先生が来ヨッタ 2. 先生が来ハッタ 3. 先生が来ヤハッタ
4. 先生が来タ 5. 先生が来トッテヤ 6. 先生が来ヨッテヤ
7. 先生が来ヨッテデス 8. 先生が来トッテデス 9. 先生が来ナサ
- ッタ 10. 先生が東京へ行カハル 11. 東京へ行キハル 12. 東京へ行
- キヨッテヤ 13. 先生が字を書カハル 14. 先生が字を書キハル
15. 字を書キヨッテヤ 16. 字を書イトッテヤ 17. 字を書カハッタ
18. 字を書キハッタ 19. 字を書キナサル 20. 字を書キナサッタ
21. 字を書キナハル 22. 字を書カハリマス 23. 字を書イテハル
24. 字を書イテイヤハル 25. 小父さんが写真をウツシハッタ
26. 小父さんが写真をウツサハッタ 27. 写真をウツシヨッテヤ
28. 写真をウツシトッテヤ 29. 写真をウツシハットル 30. 写真をウ
- ツサハットル 31. 小父さんがテニスをシトッタ 32. 小父さんがテニ
- スをショッテヤッタ 33. テニスをシトッテヤッタ 34. テニスをシテ
- ハッタ 35. テニスをシテハル 36. テニスをシトッテハル
37. テニスをショッテハル

1. 勉強セヌ 2. 勉強シナイ 3. 勉強セン 4. 勉強シン
5. 知ラナカッタ 6. 知ラナンダ 7. 知ランカッタ 8. 知ラザッタ
9. 知ラダッタ 10. 知ランダッタ 11. 知ランジャッタ
12. 知ラナクテ 13. 知ラナイデ 14. 知ライデ 15. 知ランデ
16. 知ラナンデ 17. 知ラント 18. 勉強セネバ 19. 勉強センバ
20. 勉強シナケレバ 21. 勉強センケリヤ 22. 勉強セニヤ
23. 勉強セナ 24. 勉強シネバ 25. もうそんなことはシマイ
26. もうそんなことはセマイ 27. もうそんなことはスマイ
28. もうそんなことはスルマイ 29. もうそんなことはショーマイ
30. あれを見ロ 31. あれを見イ 32. あれ見レ 33. あれ見リ
34. あれ見ヨ 35. あれ見ナ 36. あれは桜ダ 37. 桜ヤ 38. 桜ジャ
39. 払<sub>ハラ</sub>ッタ 40. 払<sub>ハラ</sub>ウタ 41. 広クナル 42. 広ウナル 43. 広ナル<sub>ヒロ</sub>
44. 弟に仕事をサセル 45. 弟に仕事をサスル 46. 弟に仕事をサス
47. 行カセル 48. 行カスル 49. 行カス 50. 見ナイ 51. 見ラナイ
52. 見ラヘン 53. 見ヤヘン 54. 見イヘン 55. 見イヒン
56. 来ナイ 57. 来<sub>コ</sub>ン 58. 来ヤヘン 59. 来<sub>キ</sub>ーヘン 60. 来<sub>キ</sub>ーセン
61. 来<sub>ク</sub>ーヘン

集計の数字は、左のことばを使うものの百分率をしめす。

この集計結果によって、集計A(調査用紙上段グループ)の4(先生が来タ)と1(来ヨッタ)は男子のみの場合もつと多いが、女子が入っているため少なくなっている。

参考までにあげると三六頁のようである。ずいぶん乱暴なことばのようであるが、中学生の場合はこのようになってい

る。先にも言ったように地点の住民層は大体、同じ程度と考えられる。

しかし、「来ヨッタ」は軽蔑というほどのものでなく「来タ」よりいくらかぞんざいという程度のものらしい。

④の「来ヨッテ」は「来ヨル」、「来ハッタ」は「来ハル」であるから、ヨル系は東灘(東)でなくなり、ハル系がそこから急にふえているから、ヨル系の神戸方言とハル系の大阪方言との境界線は、このあたりということになる。

⑤の行カハルのように、未然形にハルのつくのは京都だというが、宝塚、池田では少し数がのぼっている。

⑥も④と同様、東灘(東)の境界線は、大体動かないという線が出ている。

⑦⑧のハッタは、これまで神戸側にあった東灘(西)は灘にくらべて多いが、これについては神戸の人もハルは使わないが、ハッタなら使うということも大人の間ではしばしば聞く。

また、17の京都系ハッタは宝塚、池田では急にふえている。この二つは大人の間では、もっと全体的に数がふえることだろうと思う。

⑨、⑩についても大体同様なことが見られる。

ハルはつかわず、テハルなら使うという場合もある。

では、ハルとテハル、ハッタと、どう違うか、また、何故右にのべたようなことがあるのか、大阪人にとってはハルは土地のことばであるが、神戸人には、やはり、よそことばであろう。そして、ハルは尊敬語だから、ハルという動作的表

## (A)

阪  
神  
間  
方  
言  
語  
法

		須 磨	長 田	兵 庫	生 田	荻 合	灘	東 灘 (西)	東 灘 (東)	芦 屋	西 宮	尼 崎 (西)	尼 崎 (東)	西 川	福 島	宝 塚	池 田
①																	
先生が来タ	4	78	95	73	65	50	70	43	51	30	15	54	55	43	53	34	16
来ナサッタ	9	3	1	2	0	4	1	7	4	6	8	4	6	6	12	9	5
来ヨッタ	1	36	11	15	17	8	17	8	8	2	0	14	12	23	10	7	10
来トッテヤ(デス) 5(8)	80	28	56	32	42	48	28	10	0	2	1	0	1	0	1	1	
来ヨッテヤ(デス) 6(7)	76	22	52	24	56	34	44	10	0	2	6	4	2	0	2	0	
来ハッタ	2	2	2	9	5	10	4	15	78	76	60	38	74	43	98	74	62
来ヤハッタ	3	0	2	4	2	4	2	4	8	6	20	5	10	9	10	24	22
②																	
先生が東京へ 行キヨッテヤ	12	68	52	48	32	50	28	26	12	2	6	2	0	2	0	1	0
行キハル	11	4	1	7	5	6	12	25	56	72	50	57	68	72	98	76	84
行カハル	10	0	0	6	4	2	2	3	14	4	38	11	16	14	6	41	31
③																	
先生が字を書キヨツテヤ	15	76	36	54	32	52	32	32	6	2	2	2	0	2	0	0	0
書イトッテヤ	16	60	36	54	30	60	28	38	18	2	2	0	4	0	6	0	0
書キハル	14	2	4	0	8	12	4	22	60	56	52	60	74	58	98	76	74
書カハル(ハリマス) 13(22)	80	0	0	5	0	0	0	1	8	6	36	8	8	12	8	30	16
書キナハル	21	0	0	0	3	0	2	1	8	2	0	4	1	2	2	2	0
書イテハル	23	2	4	11	8	8	7	28	54	62	54	40	56	64	76	70	44
書イテイヤハル	24	1	0	3	2	2	1	2	6	0	2	2	0	1	6	8	6
④																	
書キハッタ	18	6	1	6	5	6	2	22	56	66	46	46	56	52	94	64	48
書カハッタ	17	2	0	5	0	2	0	4	12	20	38	8	14	14	8	44	30
書キナサル	19	6	4	2	2	2	6	4	4	2	4	0	2	2	2	2	4
書キナサッタ	20	10	7	11	3	6	3	6	4	6	6	5	0	6	2	0	5
⑤																	
小父さんが写真を ウツシトッテヤ	28	60	24	52	28	42	28	40	14	2	6	2	4	0	2	4	0
ウツシヨッテヤ	27	80	42	60	28	66	42	42	26	8	4	6	0	8	8	0	2
ウツシハッタ	25	8	6	14	12	10	4	18	58	56	46	44	62	56	98	98	94
ウツサハッタ	26	0	0	2	3	0	0	2	6	10	34	6	12	14	2	26	22
ウツシハットル	29	2	2	0	0	2	0	2	2	2	4	2	4	6	0	2	0
ウツサハットル	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1
⑥																	
小父さんがテニスを シトッタ	31	83	83	84	72	52	53	50	40	24	15	63	42	69	52	42	14
シトッテヤッタ	33	54	10	40	20	26	24	48	18	2	4	2	4	4	2	4	0
シヨッテヤッタ	32	52	22	34	12	46	18	26	14	0	0	2	2	4	4	4	4
シトッテハル	36	0	2	2	0	0	2	2	2	4	0	0	2	0	2	0	0
シヨッテハル	37	0	2	0	2	6	0	4	2	0	2	2	0	0	0	0	0
シテハル	35	0	0	12	6	12	8	16	60	74	66	50	56	68	84	68	84
シテハッタ	34	2	4	20	8	10	0	32	56	70	56	38	56	62	92	78	96

現としては用いず、テハルとかハッタとか、幾分でも尊敬する相手の動作を、状态的に表現しようとするときだけにつか

うのではなからうか。

テハルのときだけにつかうテのつかい方は、神戸方言の「先生が書キヨッタ、」などのテと同じ考え方ではないだろうか。(註五)

神戸における、または、この附近における大人のハル、テハル、ハッタの使い方を調べてみる必要があるだろう。

以上によって境界線は一応、東灘(東)、本山町にするか、東灘(西)御影町にするか、その中間あたりだろうか、この二地点の間隔は約二軒である。

集計Bは、表をみて頂くだけでよいのだが、「来<sup>ッ</sup>ーヘン」を入れなかったのは手落ちだった。これは本学、学生にも多くきかれる形である。20のような言い方が案外多いことと、30は関東的、34は関西的と考えていたのが、同じ位になっていること、と同時に36と37についても言えるだろう。

それに39、40と比較し、42に注意してみると、関東、関西の買ッタ、買ウタの例を出さなかったのは手落ちだったが、ウ音便が関西の特徴であると考えていたのが、この中学生が成人になるころにはどうなることかと思う。39のみ使うもの、40のみ、39と40と両方をつかうものの比率は12対15対10という割合である。

これには、買ッタ、借ッタ、買ウタなどは教科書にも方言とか、その他のところで特にとりあげられたり、大人の間でウ音便がなくなりつつあるのではないかと考えられ、学校教育、新聞・ラジオ、いろいろのところで影響され、とくに関西的といわれるものは次第に姿をかえて行くのではなからうか。

中学生の間だけ、買ッタで、大人になれば買ウタにもどるとは、一応考えないでよいと思う。これについても、大人の調査が必要だろう。

先生が来 <sup>ッ</sup> タ	須 磨			長 田			兵 庫			生 田		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
先生が来 <sup>ッ</sup> タ	96	60	78	98	92	95	92	54	73	94	36	65
来 <sup>ッ</sup> タ先生が	50	22	36	14	8	11	26	4	15	32	2	17



## (B)

			須長兵生葺						東離		東離		芦西		尼崎		西淀		福宝		池	
			磨田	庫	田	合	離	(西)	(東)	屋	宮	(西)	(東)	川	島	塚	田					
阪 神 間 方 言 語 法	勉強セヌ	1	1	2	1	2	2	1	1	0	2	0	0	0	0	2	2	0	2			
	勉強シナイ	2	63	67	65	50	78	51	72	68	66	56	61	68	41	84	81	74				
	勉強セン	3	13	26	21	22	14	13	17	8	6	8	18	8	28	28	10	16				
	勉強シン	4	5	5	3	1	4	3	1	2	0	0	1	2	4	0	1	0				
	知ラナカッタ	5	88	59	72	62	86	64	69	82	62	46	40	16	27	50	56	44				
	知ラナンダ	6	52	44	45	29	18	43	22	4	12	6	14	18	27	26	32	27				
	知ランカッタ	7	76	65	65	49	56	53	59	70	68	54	55	88	67	98	77	74				
	知ラザッタ	8	0	2	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	1				
	知ラダッタ	9	0	3	0	1	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	1				
	知ランダッタ	10	0	2	0	5	0	0	1	2	0	0	1	4	1	8	0	1				
	知ランジャッタ	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0				
	知ラナクテ	12	8	6	6	5	8	11	7	12	4	4	2	0	2	16	10	0				
	知ラナイデ	13	15	12	19	8	18	8	23	10	14	16	10	12	10	24	19	6				
	知ライデ	14	5	3	6	6	2	1	3	2	2	2	3	0	6	4	5	2				
	知ランデ	15	77	53	57	40	38	55	40	26	18	30	41	48	47	62	47	31				
	知ラナンデ	16	19	10	18	2	8	5	5	8	2	10	7	0	6	12	16	8				
	知ラント	17	38	18	31	11	32	21	15	18	16	24	13	24	8	30	26	13				
	勉強セネバ	18	15	3	9	7	2	1	7	18	12	6	8	0	0	10	10	10				
	勉強センバ	19	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	20	0	0				
	勉強シナケレバ	20	58	51	50	44	62	40	52	44	48	42	44	36	31	64	54	64				
	勉強センケリヤー	21	2	1	3	1	2	0	0	0	0	0	3	0	3	2	1	0				
	勉強セニヤー	22	2	4	3	1	2	2	2	0	0	2	1	0	2	0	2	1				
	勉強セナ	23	61	52	45	28	46	43	23	36	28	34	29	48	46	70	44	47				
	勉強シネバ	24	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0				
七 七	もうそんなことはシマイ	25	12	12	8	9	16	12	6	16	10	14	8	6	16	28	13	10				
	そんなことはセマイ	26	3	1	2	0	4	2	0	2	0	0	2	4	3	2	1	3				
	そんなことはスマイ	27	18	16	26	12	14	6	10	10	16	16	7	4	4	22	8	14				
	そんなことはスルマイ	28	32	26	31	23	18	9	29	18	12	20	18	14	14	26	25	18				
	そんなことは ショーマイ	29	12	3	5	11	4	3	2	4	0	8	3	4	0	2	46	7				
	あれを見ロ	30	27	27	27	22	6	22	19	4	4	10	25	2	20	12	25	19				
	あれを見イ	31	45	43	40	23	28	32	30	14	8	26	27	26	36	54	30	43				
	あれ見レ	32	0	4	5	3	8	2	0	2	0	0	3	0	1	0	0	1				
	あれ見リ	33	3	3	1	1	4	2	0	0	2	0	1	6	0	0	0	1				
	あれ見ヨ	34	14	14	11	10	6	10	13	16	4	12	8	6	12	12	15	7				

	須磨	長田	兵庫	生田	葺合	灘	東灘(西)	東灘(東)	芦屋	西宮	尼崎(西)	尼崎(東)	西川淀	福島	宝塚	池田	
あれ見ナ	35	5	0	10	3	4	4	5	4	0	6	7	4	7	16	5	5
あれは桜ダ	36	36	24	26	24	14	15	27	24	22	8	26	12	16	26	22	17
桜ヤ	37	85	67	75	56	80	62	48	68	54	62	49	70	65	98	63	89
桜ジャ	38	1	3	4	2	0	1	2	0	0	2	3	0	1	0	3	0
払ッタ	39	49	30	41	34	66	25	41	74	58	56	30	36	28	62	47	64
払ウタ	40	47	28	39	27	24	34	27	8	4	16	21	30	39	54	24	40
広クナル	41	35	20	34	27	32	23	37	56	50	38	35	40	23	40	40	39
広ウナル	42	10	6	13	7	6	12	8	6	4	10	3	6	5	8	6	8
広ナル	43	73	49	55	32	58	50	42	38	42	28	45	38	54	72	60	67
弟に仕事をサセル	44	59	43	46	46	62	35	54	74	74	46	45	46	39	56	58	61
仕事をサスル	45	0	1	0	2	2	0	0	4	2	0	0	2	0	4	1	1
仕事をサス	46	63	49	59	36	48	34	44	40	28	36	44	32	37	48	49	55
行かセル	47	48	24	45	32	32	24	42	42	30	42	22	38	32	40	47	51
行かスル	48	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
行かス	49	63	42	47	35	64	54	55	46	44	44	48	48	45	74	67	63
見ナイ	50	42	40	43	27	42	28	45	42	34	34	45	24	27	58	45	39
見ラナイ	51	9	5	9	2	6	3	1	2	0	2	2	2	2	2	3	1
見ラヘン	52	20	14	17	3	8	11	0	0	0	2	1	2	3	6	2	1
見ヤヘン	53	34	16	27	15	34	13	31	20	26	16	11	16	11	20	15	5
見イヘン	54	20	21	21	17	14	16	11	8	10	12	10	20	23	22	12	16
見イヒン	55	41	18	39	21	18	24	31	52	24	34	17	36	19	14	37	48
来ナイ	56	28	38	39	25	34	28	40	38	44	34	40	20	18	36	43	34
来ソ	57	7	2	8	7	0	4	4	2	4	2	3	2	6	8	5	4
来ヤヘン	58	39	18	30	14	38	20	30	34	20	22	11	6	12	14	18	6
来ーヘン	59	10	6	12	5	2	6	6	12	12	4	6	6	4	10	6	2
来ーヒン	60	19	9	17	10	12	17	20	26	16	36	3	2	3	6	24	7
来ーヘン	61	62	52	56	45	36	34	21	32	20	18	37	60	68	90	35	64

方言の語法については、学校教育その他が大きな影響を与えていると言えそうだ。  
 なお、この調査の対象となった中学校は、次の通りである。お世話下さった先生、調査に御協力下さった多くの生徒諸君に、末筆ながら厚く御礼申し上げます。

須磨区(神戸)	飛松中学校	芦屋市	精道中学校
長田区	大橋中学校	西宮市	浜脇中学校
兵庫区	兵庫中学校	尼崎市(西)	立花中学校
兵庫区	湊中学校	尼崎市(東)	小田南中学校
生田区	神戸中学校	西淀川区(大阪)	歌島中学校
葺合区	葺合中学校	福島区	野田中学校
灘区	原田中学校	宝塚市	宝塚中学校
東灘区(西)	御影中学校	池田市	池田中学校
東灘区(東)	本山中学校		

註 一、奥村三雄氏「方言分布区劃」「兵庫方言5」その他。

二、方法としては、どちらが都市、農村ということはないが。

三、実は、この調査表で京都まで行き、京都、大阪、神戸の境界をみようと思ったが、大阪を通ることが無理らしいのと、ほかの理由で、宝塚、池田へまわった。次回には是非やってみたい。

四、神戸市を中心として芦屋市までの調査であるが、『兵庫方言4』に「神戸方言語法」として出した。  
 五、「テ」の状態的表現については、拙稿「神戸方言語法」「兵庫方言4」と「尊敬表現としての『て』『に』」「甲南女子短大論叢第二号』を見ていただきたい。